帝京大学 50th
本部広報課 TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
http://www.teikyo-u.ac.jp/

2棟の校舎だった創立当時と、変貌を遂げた現在の帝京大学（八王子キャンパス）。1966（昭和41）年、経済学部と文学部の2学部3学科でスタートした。半世紀の歩みは、50周年を記念して開館した帝京大学総合博物館［新校舎棟SORATIO SQUARE（ソラティオ スクエア）地下1階］で広く一般にも紹介されている。

『自分流』を貫き、歴史をしのぐ未来へ

「三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」。孔子の論語にある言葉だが、二十歳前後の若者に天命までたどり着ける教訓を授けることも、大学が果たすべき役割といえるだろう。

今年、帝京大学は創立50周年を迎える。1931年に冲永荘兵衛氏が設立した帝京商業学校が源流で、その後35年を経て大学を設置。先代の冲永荘一学長により、東京都八王子の地に2つの人文社会系学部を開設したところから歴史が始まり、医学部も擁した総合大学へと進化を遂げていく。キャンパスも板橋・宇都宮・福岡・霞ヶ関と全国に広がり、ネットワークは海外へと拡大した。英国や米国を中心に拠点や提携校を増やしながら留学制度を充実させた。英国のダラムには分校も設立し、オックスフォード大学やハーバード大学をはじめとして、今では東南アジア各国の大学との提携も拡充中と聞く。他にも行われてきた変革は枚挙に暇がない帝京大学だが、一貫して変わらないiSM（イズム）がある。『自分流』という教育理念だ。

「この言葉は、本学が育てたい人物像そのもの。自分の生まれもった個性を最大限生かすべく行動し、結果の責任は自分が負うという生き方の哲学です。グローバルの時代、さまざまな国の人びとと相互作用し、新しいものを創造していく。それが『自分流』を確立した人材だと考えます」。そう語るのは、2002年から学長を務める冲永佳史氏。ちなみに、帝京大学には『帝京学』という授業があり、1年次に文系学部の全学生が受講する。教育理念の浸透と、教育指針『実学・国際性・開放性』を理解させ、学ぶことの意義を自分なりに考えてもらうことが目的で、学長も自ら教壇に立つ。

学問のステージは現在10学部30学科まで増え、創立当初200人だった在学生数も2万4000人規模に。帝京大学には文系から医療系、理工系まで、さまざまな専門分野を学ぶ学生が集まっている。それは社会の縮図でもあり、そこでの相互作用が社会と同じ空気を創っているようだ。近年は、八王子キャンパス内に22階建ての新校舎棟『SORATIO SQUARE（ソラティオ スクエア）』が完成し、教育インフラの整備にも余念がない。今後10年間は教育プログラムの改革、国際化や社会人教育の推進に力を入れていくというが、帝京大学は次の半世紀でどう変化していくのだろう。50周年に向けて打ち出したスローガン『歴史をしのぐ未来へ』を継続し、今日よりも一歩でも成長した明日を、大学と学生がともにめざしていくに違いない。

この半世紀の間に巣立った学生数は15万人以上。1期生が現役で活躍しているケースも多いまだ若い部類の大学ではあるが、『自分流』という教訓を得た卒業生たちは自ら未来を切り拓き、歩み続けている。